

誰かの役に立てること

法テラス徳島法律事務所等

1 私はあなたの役に立てましたか

この原稿を書いている時、新しい勤務地である徳島に来て4か月が過ぎました。全国転勤があると、いつも別れの瞬間が寂しく、転勤後数か月は前任地のことを思い出し、みんな元気に入っているだろうか、私はあの人の役に立てたかな、などとほんやり考えています。私は、長い浪人時代を経て司法試験に合格しましたが、司法試験の勉強ばかりをして誰の役にも立てていない自分に悩んでいました。その反動か、弁護士になって誰かの役に立てた、と思える瞬間に幸せを感じます。徳島に来て日も浅く、活動した内容が阿波踊りへの参加と士業対抗ソフトボール大会くらいですので、そのことは写真での報告に代えさせていただき、本稿では、私が特に忘れられない「この人の役に立てただろうか」ということについて話をします。

2 最後の後も大切にする

私が弁護士1年目の養成事務所として過ごした岡山パブリック法律事務所は、事務所内にご遺骨が何体か保管されている所でした。ご遺骨は、身寄りがない、又は親類の方と疎遠で埋葬する方がいなない成年被後見人等のものでした。誰でも、死後自分の体がどこにいくのか気になると思います。弁護士1年目の私は、ひとつひとつの

遺骨を見て、死後もその人を大切にして永く関わり続ける誠実さや、今後会うであろう人たちに自分がどれだけ誠実に向き合えるか、という不安を感じていました。

岡山パブリック法律事務所の社会福祉士さんからは「後見は、気を付けないと管理になってしまいます。ご本人にとって最良ではなく、後見人側の管理に最良とならないように。」と教えていただきました。あらゆる事件で、私にとって都合の良い楽な選択へ流れてしまう瞬間が何度もあり、依頼者にとって何が最良か、目の前の人のために役に立てているだろうか、といつも自問しています。

3 最後に澄み渡る空

弁護士2年目は、西日本の過疎地にいました。私は、その土地に赴任して3か月でうつ病になり、ほとんど仕事をすることができませんでした。当時は、地元の方や先輩方などのたくさんの方にご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした(皆さんのお陰で復帰し、元気になります)。ほとんど仕事ができない中で唯一行えたことが、着任直後に起きた成年被後見人の方の死後対応でした。養成事務所でいろいろと学んだつもりでしたが、初めての死後対応で大慌てになり、思わず養成事務所の社会福祉士さんへ電話をして、いろいろとアドバイスをいた

だきました。

火葬の日は、朝から雨が降り続いていました。火葬場の外でぼんやりとしていると、なぜか火葬の時間だけ空が澄み渡り、真っ青な空が広がりました。しかし、遺骨と一緒に帰る頃には、再び雨が降り始めました。アドバイスのお礼も兼ねて社会福祉士さんに報告をしたところ、「きっと昇って逝かれたんだね。先生が来るのを待っていたのかもよ。頑張ったね。」と言われ、涙が止まりませんでした。その後、うつ病で休むことになり、その赴任地では誰の役にも立てませんでしたが、もしかしたら、その故人だけ、私のことを思ってくれたのかもしれません。その人の、最後の瞬間だけでも役に立てたなら、と思っています。

4 最後まで見届ける

仕事に復帰してから数か月、次の赴任地は、本州最北端の法テラスむつ法律事務所でした。友人からは病み上がりに本州最北端の事務所に行くことについてとても心配されましたが、もう一度過疎地で頑張りたいという思いがあり、赴任することを決めました。当時の上司も、私と同じ思いでむつへの赴任を打診してくれたようです。

むつでは、1年近く紛争が継続している事件の引継ぎを受けました。私が引き継いだ後も4年ほど、合計5年間続いた事件です。紛争



徳島弁護士会会員

河智 了顕

Kochi, Ryoken

当事者の方が一番苦しかったはずですが、依頼者であるおじいさんは、いつも「先生悪いな。いつも迷惑をかけて。」と笑顔でねぎらってくれました。ある日、係争物と一緒に見に行くと「この近くにある海岸に行ったことがあるかい？」きれいだから行ってみるか。」と私を軽トラックに乗せて青く澄んだ海を見せてくれました。そんなおじいさんから、病院で余命3か月の宣告をされた、と連絡がありました。事件の終結まではまだ時間がかかりそうな状況でしたが、早く終われるように頑張ることを伝えると「それなら最後まで頑張ってみるよ。」と受話器の先でいつもの笑顔の声で応じてくれました。結局、事件の終結まで半年を要したのですが、おじいさんは最後まで見届け、少しして他界されました。長い時間を要した事件でしたが、最後まで見届けたおじいさんに対して、なんとか役に立てたかな、と思っています。

5 最後になる前に

法テラス青森では、自宅が物やゴミであふれかえっているご兄弟に会いました。食べ物は腐敗し、床は物やゴミで見えず、二人とも着ている服がボロボロでした。そんな状態でも、二人の生活は、誰からも気に留められることはなく、あらゆる面で困難を極めたまま、私が刑事事件で関わることに



阿波踊りの写真

なりました。まずは、衛生環境の回復のために、福祉関係者の方の助力で部屋の掃除、併せて自力での生活が困難であるため施設入所の調整を行ってもらいました。部屋の掃除の際、弟さんが掃除をする私たちに、お茶を買ってきました。借金を抱えていたご兄弟にとって、決して少なくない支出だったはずですが、せめてもの返しを考えてくれたのでしょうか。公判後、ご兄弟は別々に生活することとなり、弟さんは施設へ入所しました。

徳島に転勤後、弟さんが債務整理に向けて準備をしていた中、施設内で倒れているところを発見され、その時には既に事切れていた、という訃報が入りました。弟さんの部屋には、債務整理のための作りかけの家計簿や、昔勤めていた職場の同僚からの寄せ書きが置いてあったそうです。そこには、刑事事件の側面では見えない、弟さんが周りから慕われ、必要とされ幸せであったであろう時期、ご本人がその幸せを取り戻そうと努力を始めた跡がありました。私は、この人が最後の時を迎



活躍した土業対抗ソフトボール大会

える前に、幸せを取り戻そうすることへの役に立てただろうか、関わったことに意味はあったのだろうか、と考え今も答えが出ていません。もしかしたら、人は、誰かの役に立ちたいという思いをもち、誰かの役に立てたことで幸せを感じられるのかもしれません。

6 最後にもう一度聞かせてください

いずれも、ご本人にとって、私が最後に関わった専門職かもしれません。少しは役に立てましたか。今も皆さんのこと思い出します。死が別れであったり、転勤が別れであったり、互いに又は相手の気持ちが離れることでの別れがあったりしますが、あなたの役に立てたなら、幸せです。

みんなの灯り、了顕さん

了顕さんとは、了顕さんが弁護士1年目に所属された岡山パブリック法律事務所で一緒にさせていただきました。

いつも明るく笑顔で誰とでも接してくれる了顕さんは、スタッフからも依頼者からも人気者でした。了顕さんが退所された際には、事務所の蛍光灯の灯りがひとつ切れたような感覚を持ったのを思い出します。

了顕さんは、他者の立場や状況に関わりなく全ての人を尊重し敬意を持って接する姿勢、他者の痛みを自分の痛みのように感じられる感性、法的解決だけではなく依頼者の暮らしや人生に寄り添う姿勢を持たれており、我々ソーシャルワーカーも多くを学ばせていただきました。

全国各地で様々な人々の心と人生に灯りを灯しておられる了顕さん、これからもお体をお大事に、ご活躍を応援しています!!

From 尾崎 力弥 (弁護士法人岡山パブリック法律事務所副所長・社会福祉士)